

磐田を 知りたい！ 調べたい！

磐田の鉄道

明治 22 年（1889）に東海道線が開通しました。それまで自らの足と馬、そして船で往来していた交通が、鉄道の敷設により飛躍的な発展を遂げます。

1. 鉄道建設

明治 5 年（1872）、新橋～横浜間に鉄道が敷設されました。その後、飛躍的に有効性・利便性を発揮し、明治 22 年に神戸まで延長されました。

『日本鉄道史年表』、『日本の鉄道 成立と展開』、『日本鉄道史の研究』など

2. 旧・国鉄二俣線（現・天竜浜名湖鉄道）

昭和 15 年（1940）に現在の掛川市～湖西市新所原の間に国鉄二俣線が全通しました。戦争により、東海道本線の浜名湖、天竜川に架かる鉄橋が破壊された時の迂回路として位置付けられたようです。

昭和 62 年（1987）3 月 15 日から第三セクター「天竜浜名湖鉄道」として営業を開始しています。

『二俣線機関車物語』、『二俣線の詩』、『二俣線の詩 2』

『行かまい、天浜線』、『天浜線沿線タウンウォッチング』

『静岡県鉄道興亡史』 p 273、『天竜浜名湖鉄道 5 周年記念誌』など

3. 中泉軌道（なかいずみきどう）

明治 42 年（1909）に池田橋～中泉停車場（現在の磐田駅）間が開通しました。これは北遠の久根鉱山（くねこうざん）から産出された鉱石を人車軌道で輸送する目的で設立されたものです。

『静岡県鉄道軌道史』、『静岡県鉄道興亡史』 p 127

『中泉町誌』、『磐田ことはじめ』 p 176、『磐田の記録写真集』

4. 光明電気鉄道 (こうみょうでんきてつどう)

北遠の久根鉾山から産出された鉾石の運搬は、帆掛け船で東海道線天竜川駅まで実に 6 時間半かかりました。その運搬を鉄道で行おうと計画されたのが光明電気鉄道です。昭和 3 年 (1928) に新中泉～田川間の 5.3 km が開通し、昭和 5 年 (1930) 12 月に二俣町までの全線 23 km が開通しました。

『幻の光明電鉄』、『光明電気鉄道』、『静岡県鉄道軌道史』

『磐南の暮らしを支えた文化財』 p 137、『静岡県鉄道興亡史』 p 239

5. JR (旧国鉄) 東海道線

鉄道開通の頃の痕跡をたどることができます。磐田駅のプラットホームは、開通当初は全部がレンガ積みでしたが、現在は下層部のみ残っています。 『遠州大乘院坂界限』

中泉駅の写真や東海道線工事決定の経緯、工事の模様などを知ることができます。

『静岡県鉄道写真集』、『磐田市史 通史編 下巻』

『静岡県鉄道興亡史』 p 328～331

このほか、鉄道史に関しては、遠美線 (えんびせん) 鉄道計画など路線計画があったものの資金困難のため立ち消えとなったものもあります。 『静岡県鉄道興亡史』 p 15～39, p 249～252, p 318～327

『なつかしの秋葉線』、『思い出の秋葉線』、

『なつかしの駿遠線』、『なつかしの駿遠線 II』、

『懐かしの軽便物語』

このほか、詳細にお知りになりたいときには、レファレンス (相談) カウンターまでお尋ねください。